

こっぺる



つながる学びの実現に向けて

頸城中学校 校長 小池克行

子どもたちは、日々の生活の中でいろいろな人と関わり、学びを深めながら成長し、未来へと羽ばたいていきます。小学校での学びが、中学校での学びへとつながるこの過程は、子どもたちにとって人生の土台を築く大切な時期です。その歩みを途切れることなく支えるため、小学校と中学校が一体となり、きめ細かな教育と支援を行うことが重要です。

頸城中学校区の小学校と中学校では、「学力向上」「豊かな心」「健康づくり」を小中一貫教育の視点として、子どもたちが無理なく次のステージへ進めるよう、教育活動に取り組んでいます。授業での取組はもちろんのこと、学校生活全体を通じてつながる学びを実現し、一人一人の成長を丁寧に見守っていきます。また、保護者や地域の皆さまの温かな支えとともに、子どもたちが自分の個性を発揮し、互いに認め合える風土を育んでいきたいと思っています。

「こっぺる」は、こうした取組を保護者や地域の皆さまにお伝えするとともに、学校と保護者、地域が一体となって子どもたちを支える一助となることを目指しています。これからも、皆さまの温かいご支援とご協力をいただきながら、子どもたちの健やかな成長を支援してまいります。

頸城中学校区全体研修会 みんなが輝くための授業づくり

～特別支援教育の充実の視点から～

◆日 時：令和6年8月1日（木）13:30～15:00

◆会 場：頸城中学校

◆参加者：頸城中学校区教職員

区内の教職員が集まり、上越市立吉川小学校 長谷川和彦校長先生を講師としてお招きし、講話や小グループによる事例検討を通して研修しました。教育の土台と言われる特別支援教育の現状から、子どもたちの実態に合わせた授業づくりや支援の仕方を教えていただきました。自己有用感を高める言葉がけ「子どもを認める100の言葉」も紹介していただきました。児童や生徒の「好ましい行動」を増やすためにほめる際に、様々な場面で私たち教職員も活用していきたいと思っています。今後も子どもたちの気持ちに寄り添いながら、一人一人の力を伸ばしていけるよう、教職員一丸となって、学校生活の充実を目指していきます。



小中合同あいさつキャンペーン

10月16日(水)～18日(金)の3日間、頸城中学校の生徒(大湊小の卒業生)が大湊小を訪れ、児童玄関前であいさつキャンペーンを実施しました。頸城区青少年健全育成会議の役員の方も、参加してくださいました。驚かされたのは、中学生のさわやかなあいさつと、きびきびとした行動です。「あいさつ」を核とした子どもたちの健全育成は、伝統に培われた頸城区のよさであり、強みでもあった活動でした。

<学校だより おおぶけ No7より抜粋>

頸城区小中学校 いじめ見逃しゼロスクール集会(K3 集会)

◆日 時：令和6年11月14日(木)

第1部 13:45~14:25 第2部 14:35~15:00

◆会 場：頸城中学校武道場

◆参加者：区内小学校の6年生及び、頸城中学校1~3年生



小学生と中学生が「いじめ見逃しゼロ」の活動を通して交流し、「いじめをしない、許さない」という強い思いを共有する。これが活動のねらいです。

第1部では、各校の代表が、「いじめ見逃しゼロ」の取組を発表しました。第2部では、小学生と中学校1年生が、小グループに分かれて交流活動を行いました。

集会では、和やかに生き生きと関わり合う児童・生徒の姿が随所に見られ、これまでの各校の取組や中学校区での交流の成果を感じます。児童・生徒に「いじめ見逃しゼロ」の意識が、確実に醸成されています。

学力向上を目指して

研究テーマ『人・もの・こと』と関わって考えを広げたり整理したりしながら、

南川小学校

問題解決する授業づくり」



授業実践：第3学年 国語科「書くときに使おう『書くことを考えるときは』」

ポスターの仕組みを学んだり、言葉の意味や効果を吟味したりしながら、ポスターを作成する学習に取り組みました。思考ツールを活用し、互いの意見を認め合いながら内容をまとめる子どもたち。教師は、国語の教科ならではの学びと総合的な学習の時間及び図画工作の単元を関連付けて、単元開発を行いました。

大濃小学校

研究テーマ「いきいきと学ぶ子ども」の育成 ～学びをつなぎ、考えを深める～

授業実践：第5学年 体育科(保健領域)「心の健康」



担任と養護教諭の2人組のチームティーチングで授業を行いました。自分と他人とを比べるという思春期の特徴に対し、「誰にでも起こること」と「個人差があること」を理解し、子どもたちが「自分らしさ」を大切して、心の発達を前向きに考えることができました。

明治小学校

研究テーマ「自他の考えのよさや相違を見だし、主体的に学ぶ子どもの育成」

授業実践：第1学年 算数科「たすのかな ひくのかな」

中・高学年でも正答率が低い二量の求大の学習に取り組みました。課題に対して、「引き算だよ!」や「たし算なのかな?」とつぶやく子どもたち。おはじきや図を使って、解決方法を考えました。教師は、課題を工夫することと問い返して思考を深化させることを指導のポイントと捉え、授業を進めました。



頸城中学校

研究テーマ「かかわり合い 高め合う子ども」

授業実践：第3学年「就職差別について考える」(人権教育、同和教育)

教育活動における様々な場面で「協働的な活動の充実」を目指しています。「かかわる機会の充実」により、生徒同士の関係の向上、人間関係形成能力の向上を期待しています。この協働的な活動が「協働的な学び」につながり、互いに高め合う集団を作ることができると考えています。

